

小中一貫教育つうしん

教育総務課 教育政策担当
TEL 55-2865
2020.8.7 地域版

小中一貫教育の必要性について



どうして今、小中一貫教育を導入するのでしょうか？

全国的に小中一貫教育が推進されているのは、児童生徒の発達特性の早期化や「中1ギャップ」等の中学入学時に生じる段差の問題、また、児童生徒の少子化問題等、様々な理由が考えられます。

その中でも、児童生徒の発達特性という視点は非常に重要であると思います。

今までの義務教育は、小学校が7歳から12歳まで、中学校は13歳から15歳までと区分され教育活動が行われてきました。しかし、児童生徒の発達が早期化していることから、

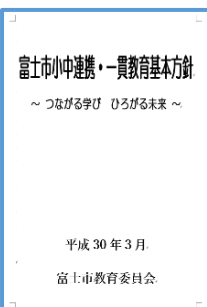
現状の6・3制と今の子ども達の発達段階との間に、多少のズレが生じてきているように考えられます。



つまり、小学校から中学校への接続期において、児童生徒の身体的な発達をはじめとする様々な成長の段差が見られ、中学校での学習や学校生活への適応が難しくなっています。また、社会の急速な変化に伴う教育内容の充実、子どもたちの人間性や社会性の育成といった早急に対応しなければならない様々な教育課題も顕在化してきています。

そのため、小学校高学年の段階から、中学校で行う学習指導や生徒指導、学級運営等のノウハウを取り入れ、**小中学校の教職員が、互いの指導観や子ども観の共通理解を図り、小学校から中学校への接続を円滑に進めることが大変重要**であり、教育的な効果も一層向上するものと考え、義務教育9年間をつなぐ小中一貫教育が、全国的な広がりを見せています。

富士市の小中一貫教育が着々と進んでいます



県内では、すでに多くの市町で小中一貫教育の実践に取り組んでいます。

富士市でも、平成29年度、これからの義務教育の接続の在り方について、富士市小中連携・一貫教育検討委員会において協議を進め、平成30年3月に「富士市小中連携・一貫教育基本方針」を策定し、これからの本市の教育の方向性を示しました。

現在、全ての中学校区において「目指す児童生徒像」を共有し、小中学生の交流活動や教職員の合同研修等、義務教育9年間のつながりを大切にした教育活動を推進しています。

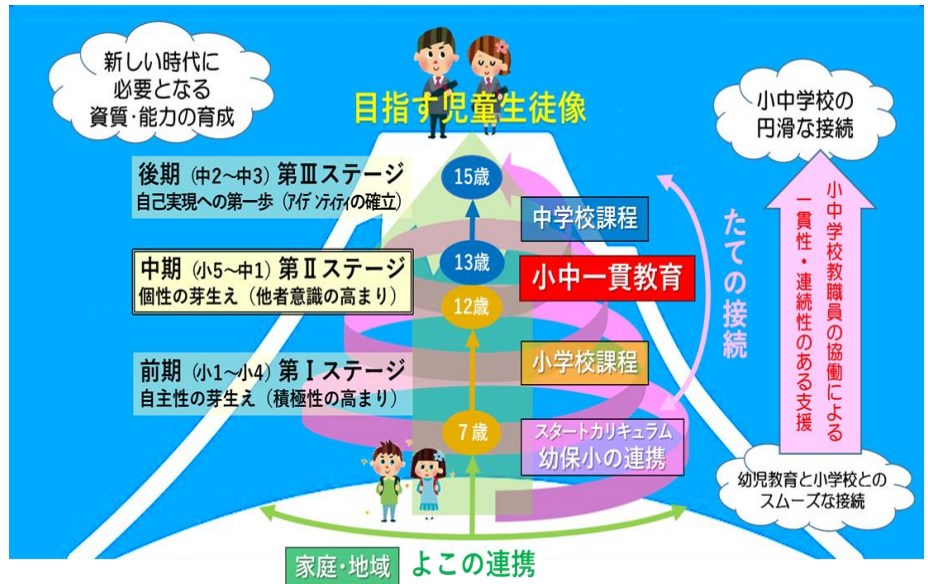
特に、かねてから小中学校相互の教科担任による乗り入れ授業を実施し、コミュニティスクールとしても地域との交流が盛んであった富士川第二小・中学校は、富士市の先行実施校に指定され、学びのつながりを意識した授業改善や施設一体型を見据えた教育課程の編成、児童生徒の交流活動の見直し・検討等、先進的な取組に挑戦し、小中一貫教育の本格的なスタートに向けて準備を進めています。



富士市の小中一貫教育は？

富士市の小中一貫教育は、義務教育 9 年間を一体的に捉え、子ども達の発達段階や各学年での特徴を十分に理解するとともに、**小中学校の教職員の協働による一貫性・連続性のある支援**へと教育活動の質を高めます。

また、小中学校がともに目指す子ども像（15 歳になった時の子どもたちの姿）を共有し、新たな時代に必要な資質や能力を育成することを目標に取り組んでいきます。



小中一貫教育導入のねらいと期待される教育効果は？

ねらい1【教育の質の向上】

小中学校の教職員が、お互いの理解を深め、義務教育9年間の学びの積み重ねを重視した授業づくりや確かな学力の定着を大切にし、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。



ねらい2【不安や段差の解消】

中学校入学後の人間関係や環境の変化による不安や、身体的発達の早期化をはじめとする、様々な成長の段差を解消するため、切れ目のない子ども理解ときめ細かな支援を実施し、小中学校の接続を円滑にします。



ねらい3【地域とともにある学校づくり】

子ども達の豊かな人間性や社会性を育むため、地域住民と目指す子ども像や教育目標等を共有し、地域の教育力を生かした学校づくりを目指します。



期待される教育効果

- 小中教職員の9年間の一貫した支援による、子ども達の安定した学校生活
- 学習内容の系統性についての相互理解や発達段階に応じた学び方や家庭学習の手引き等の実践による「確かな学力」の向上
- 幅広い異学年との交流活動や地域と連携した教育活動による「豊かな人間性」の醸成

